

「小野田寛郎翁を偲ぶ写真展」

仙台：平成30年2月10日～28日

仙台：平成28年1月25日～31日

福島：平成28年3月10日～20日

福島：平成27年1月16日～2月15日

東京：平成26年3月12日

写真展に関する報告書



一般財団法人小野田記念財団



故 小野田寛郎
享年91歳

一、 “生きる” 根本は自分にあり、 “生きる”
ためには、自分で考え行動する力が
なければならない。

一、 自然そのものに感謝し、人間も自然なしでは
生きられず、自然の一部であるということをも
忘れてはなりません。

一、 自分の命は、自分で守らなければいけません。
そのために正しい判断が大事です。

一、 すべての大人が、よく考え、
そして子どもたちに体当たりで向かわなければ
日本の将来が危ぶまれる。

一、 “塙を第二のふるさとに！”
”

故小野田寛郎が残した数多くのメッセージより

<広報はなわ 2014-2より抜粋>

小野田寛郎翁を偲ぶ写真展報告書（仙台五橋ビル7階）

日時：2018年2月10日（土）～28日（水）

10:00～18:00まで

会場：仙台市五橋ビル7階 WORLD OFFICE

後援：河北新報社

小野田寛郎研究会

小野田自然塾支援隊

来場者数：358名

2018年2月10日 開会式来場者・祝電・メッセージ

祝辞・埜町まち振興課課長

・衆議院議員国土交通委員会委員長

・元岩沼副市長 現岩沼市社会福祉協議会会長

・宮城県立宮城大学教授

・宮城県丸森町議会議員

金澤祐介 様

西村明宏 様 秘書 大島博之 様

三浦一朗 様

坂本眞一郎 様

鈴木美智子 様

祝電・宮城県知事

村井嘉浩 様

・福島県埜町長

宮田秀利 様

・加美町長

猪股洋文 様

・塩釜市長

佐藤 昭 様

・岩沼市長

菊地啓夫 様

・丸森町長

保科郷雄 様

・宮城県議会議員

高橋伸二 様

・宮城県議会議員

石川光次郎 様

・元内閣総理大臣

鳩山由紀夫 様

（※順不同）

祝花輪・福島県埜町

・株式会社 幸成

・NPO法人

SWJ エンタープライズ（香川県）様

・メントール株式会社

祝色紙3枚・歌舞伎俳優 中村獅童 様



主な写真展来場者

- ・ 埴町副町長 小松利顕 様
- ・ 埴町議会議員 七宮宏樹 様
- ・ 宮城県議会議員 高橋伸二 様
- ・ 宮城県議会議員 石川光次郎 様
- ・ 宮城県加美町長 猪股洋文 様
- ・ 衆議院議員国土交通委員会委員長 西村明宏 秘書 大島博之 様
- ・ 衆議院議員復興副大臣 土井亨 秘書 内海礼子 様
- ・ 元岩沼副市長 現岩沼市社会福祉協議会会長 三浦一郎 様
- ・ 宮城県立宮城大学教授 坂本眞一郎 様
- ・ 白河青年会議所メンバー 7名
- ・ 宮城県丸森町議会議員 鈴木美智子 様

「小野田寛郎翁を偲ぶ写真展」小野田寛郎塾長が亡くなり4年になります。

その間、写真展を地元福島県埴町道の駅で行い、2016年1月には仙台市アエルで開催。その年3月9日から福島県福島市コラッセふくしまで開催して、今回で4回目の「小野田寛郎翁を偲ぶ写真展」となりました。

宮城県仙台市では2回目となる写真展であります。

会場は仙台駅前のアエルと違い、徒歩10分地下鉄五橋駅出口から徒歩1分となり、来場者数358名となりました。また、寒さ厳しい中、新聞に掲載された記事をご持参してご来場いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

ご来場いただいた皆様の力強い励ましのお言葉を今後自然塾キャンプ野外教育を通して日本の将来を担う青少年健全育成に努めて参りますので今後ともご指導ご支援の程宜しくお願い申し上げます。

本紙をもって写真展のご報告と致します。誠にありがとうございました。



小野田寛郎翁を偲ぶ写真展報告書（仙台五橋ビル7階）







小野田寛郎を偲ぶ写真展（仙台五橋）

▼ 河北新報 H30.2.12 朝刊

生き抜く力 今に伝える

仙 台

終戦後の約30年間、フィリピン・ルバング島でサバイバル生活を送った元日本兵小野田寛郎さん（2014年死去）をしのぶ写真展が、仙台市青葉区の五橋ビルで開かれている。28日まで。

小野田さんの帰還までと帰還

みやぎ

元日本兵・小野田さんしのび写真展

後のキャンプの様子など計60点を展示。小野田さんの貴重なインタビュー映像も上映している。

青少年を対象とした野外教室「小野田自然塾」の活動を引き継いだ小野田記念財団の主催。財団の大友長悦理事長（62）は「小野田さんは子どもたちが責任と自覚を持つことを願っていた。知らない世代にも来てほしい」と呼び掛ける。

午前10時～午後6時（最終日は正午まで）。入場無料。

総合



ルバング島で撮られた写真について説明する大友さん（右）

▼ 福島民報 H30.2.8 朝刊

塙で4月からイベント

小野田記念財団 健康、音楽…幅広く

最後の日本兵といわれた故・小野田寛郎氏の遺志を引き継ぎ、塙町片貝の自然塾キャンプ場で青少年育成活動を続ける一般財団法人小野田記念財団（仙台市）は四月から毎月、市は四月から毎月ペースで、知名度の向上や利用者の拡大に向けた各種事業を町内各地で展開する。小野田

氏や財団メンバーの脈を生かし、青少年育成だけにとらわれず、健康や音楽、農業など幅広い分野でイベントを企画し、町民らとの接点を増やす。

三月下旬にはJRR警城塙駅構内にある町コミュニティプラザ内に小野田氏に関するコーナーを設け、行事日程

や小野田氏の功績を紹介する。自然塾キャンプ場も一部で老朽化が進んでいるため、六月の本格的なキャンプシーズンを前に、備品の更新やトイレの洋式化などを進め、女性専用の部屋も設置する。

恒例のキャンプは引き続き、親子向けと野外活動の指導者養成向

けの企画で実施する。他団体と協力してキャンプ場を使った野外活動も積極的に受け入れる。

小野田自然塾理事長だった小野田氏が二〇一四（平成二六）年

仙台市在住の大友長悦理事長（三）団体役員Ⅱと高橋公男事務局次長（三）企業経営者Ⅱは就任あいさつのため福島民報社棚倉支局を訪れ「もう一度、自然塾ここにありという気持ちで、小野田の目指した取り組みを再スタートさせる元年にしたい」と抱負を語った。

小野田記念財団は十日から二十八日まで、仙台市青葉区の五橋ビル七階で「小野田寛郎翁を偲ぶ写真展」を開く。入場無料。

小野田さんの写真を見詰めるスチュワートさん(右端) 2月27日、仙台市青葉区五橋1丁目



元日本兵で終戦後約30年間、フィリピン・ルバング島でサバイバル生活を送った小野田寛郎さん(2014年死去)をしのぶ写真展が2月、仙台市であり、フィリピン出身でオーストラリア在住のミア・スチュワートさん(32)が訪れた。

ほとタイム 元日本兵の生涯追う

フィリピン出身女性 映画製作進める

スチュワートさんはラジオや映画を製作する会社に勤める傍ら、小野田さんの生涯を検証するドキュメンタリー映画を2008年から自主製作している。

14歳の時、母から小野田さんの存在を聞いた。30年間とは、一体何だったのか。二度と起きない奇異な人生だと思い、夢中で調べた。親類が島に土地を持っているなど、自身との関わりもあった。

映画は当時の小野田さんを知る現島民や、小野田さんが帰国後、子どもに自然の大切さを教えるため福島県塩田町に開設した「自然塾」の関係者らのインタビューなどで構成する予定だ。

「日本とフィリピンをつなぐ懸け橋になり、小野田さんの思いが伝わればスチュワートさん。小柄な体に、映画へのあふれんばかりの思いが宿る。」

(報道部・岩田裕貴)

小野田寛郎さん お別れ会・写真展 (東京 靖国神社)

河北新報 H26.3.13 ▶

靖国神社「啓照館」で行われた故小野田寛郎さんのお別れ会

比ルバング島に30年
小野田寛郎さん
参列者冥福祈る
都内でお別れ会

終戦を信じてフィリピン・ルバング島に約30年と暮らした元陸軍少尉、故小野田寛郎さんのお別れ会が12日、東京都千代田区の靖国神社「啓照館」で開かれた。参列者は白たい祭壇に飾られた遺影に向かつて手を合わせ、冥福を祈った。

小野田さんは1944年にルバング島に派遣され、敗戦後もジャングルなどに潜む生活を続けた。74年に発見され、現地に赴いた元上官の任務解除命令を受け帰国した。

その後は、ブラジルに移住し牧場を経営する傍ら、子どもに自然の大切さを教える「小野田自然塾」を日本の各地で開催し、福島県塩田町に施設もつくった。

生前に講演を聞いたことがあるという東京都中野区の小南長次郎さん(77)は「日本の将来を心配し、自然塾で多くの子どもたちに生きることや自然の大切さを教えた人だった。まだ語りたいことがたくさんあっただろう。残念だ」と話した。

小野田さんは今年1月16日、心不全のため東京都内の病院で死去。91歳だった。

小野田寛郎翁を偲ぶ写真展報告書（仙台AER）

仙台市 AER5階 平成28年1月25日～1月31日 開催

仙台AER5階で行われた写真展は、期間1200名を越える来場者数となりました。

フジテレビドラマ「実録：小野田少尉～遅すぎた帰還～」の小野田寛郎役にて主演なさった、俳優の中村獅童さんが写真展の開催を知って駆けつけてくださり、会場での挨拶や、小野田寛郎とのエピソードをお話いただき、写真展に花を添えていただきました。

また、写真家の茅原田哲様より小野田寛郎や自然塾での活動の様子の写真をご提供いただいたことで、より良い写真展となりましたことをご報告いたします。



小野田寛郎を偲ぶ写真展（仙台AER）

▼ 河北新報 H28.1.26 朝刊

2016年(平成28年)

生きる知恵 受け継ごう

仙台・元日本兵小野田さんの写真展



小野田さんが帰還した際の写真を見入る坂本理事長（右）

ドラマ主 獅童さん きょうサイン会

終戦後の約30年間、フィリピン・ルバング島でサバイバル生活を送った元日本兵小野田寛郎さんの生涯を紹介する写真展が25日、仙台市青葉区のアエル5階で開かれた。入場券は同財団ホームページでダウンロード可。問い合わせは小野田記念財団仙台事務局02(738)9142へ。

終戦後の約30年間、フィリピン・ルバング島でサバイバル生活を送った元日本兵小野田寛郎さんの生涯を紹介する写真展が25日、仙台市青葉区のアエル5階で開かれた。入場券は同財団ホームページでダウンロード可。問い合わせは小野田記念財団仙台事務局02(738)9142へ。

▼ 河北新報 H28.1.21 朝刊

「小野田寛郎を偲ぶ写真展」が25日開幕

生きることや青少年教育を考える好機

終戦の29年後にフィリピン・ルバング島から帰還した元日本兵小野田寛郎さんの生涯を追った「小野田寛郎を偲ぶ(しのぶ)写真展」が仙台市青葉区のアエル5階で1月25日(月)開幕する。小野田記念財団が主催し31日(日)まで。

南太平洋の孤島で第2次世界大戦中とその後も生き延びたサバイバル術を写真とイラストで紹介。帰国後、青少年を対象に「小野田自然塾」を始めた小野田さんの短編ドキュメンタリー上映会もある。「生きることとは」「教育とは何か」を考える好機。写真展は午前10時～午後7時(最終日は午後6時まで)。入場無料で、入場券は同財団ホームページでダウンロード可。問い合わせは小野田記念財団仙台事務局02(738)9142へ。

▼ 毎日新報 H28.1.29 朝刊

元日本兵 小野田さん写真展

仙台31日まで 平和願ひ64点

終戦を知らず、29年後までフィリピンのルバング島の山中で過ごした元日本兵の小野田寛郎さん(2014年死去)の写真展が仙台市青葉区のアエル5階で開かれている。31日まで。入場無料。フィリピンでの救出の様子や、帰国後に始めた福島県塩竈町の小野田自然塾で子どもたちと笑顔で接する姿など

写真64点を展示している。小野田純さん(81)は「生きて日本に帰ってきたことはいいこと。主権する小野田記念財団の大友長悦副理事長は「平和の大切さや、生前口にしていた『人は一人では生きていけない』という言葉を伝えたい」と話す。会場を訪れた同区の

【三浦研吉】



小野田寛郎 写真展

小野田寛郎さんの等身大写真パネルについて説明する小野田記念財団の大友長悦副理事長（中央）＝仙台市青葉区のアエルで

小野田寛郎を偲ぶ写真展（福島）

福島市 コラッセふくしま 平成28年3月10日～3月20日 開催

コラッセふくしま5階で行われた写真展は、期間870名を越える来場者数となりました。

▼ 福島民報 H28.3.11 朝刊



小野田さんの「戦い」伝える

20日まで写真展

第2次大戦中、フリビンのルパン島に派遣され、終戦後、任務解除がされないまま30年間同島で「戦い」を続けた、小野田寛郎への生きざまを伝える。

小野田さんの生きざまを伝える写真展並立企画会

小野田寛郎翁を偲ぶ写真展「は20日まで、福島の「ロッセ」を中心とした開かれている。入場無料。

小野田記念財団(仙台市)の主催。小野田さん(生誕974・昭和49)年3月12日の帰国後、同島の経験を生かし、子どもたちにキャンプを通して自然についてのおうちと84年に自然塾を始り、1989年(平成元年)に小野田自然塾を設立。その後、福町に本部施設をへり、91歳で亡

くまで自身のモットー「自然は最高の教師である」を多くの子どもたちに継承した。

会場には、同町のキャンプ場で子どもたちと触れ合う様子や、同島で元上司から作戦任務解除命令を受ける瞬間、帰国し両親に笑顔を見せる姿を写した写真など約70点が並んでいる。

時間は午前10時~午後5時(最終日は同3時。問い合わせは同財団(電話0238-738-9142)へ。

27 朝刊

▼ 福島民報 H28.2.27 朝刊



故小野田さん 追悼写真展
10日から 福島の活動など紹介

太平洋戦争の終戦を知らずにフイリントン、ルババ島に約三十年残留した元陸軍少尉、故小野田寛郎さん（享年91）をめぐって、福島のコレッパで、ふくしまで開かれた小野田記念財団の主催、福島民報社などの後援。一月下旬に仙台市で開いた写真展に続いて企画画。小野田さんが帰還した際や、塙町の自然塾で子どもたちと触れ合う様子を収めた写

時の様子を描いたイラストや、著書「たった一人の30年戦争」「生きる」を紹介する。開催時間は午前10時から午後5時（最終日は午後三時）まで。入場無料。

問い合わせは、小野田記念財団仙台事務局（電話0222-7-6368）。

友長悦副理事長と井上新一顧問は二十六日、PRのため福島民報社を訪れた。大友副理事長は二月十六日の三回忌、三月十二日は帰還した日、十九日は誕生日とゆかりのある期間に福島県で写真展を企画したと来場を呼び掛けた。

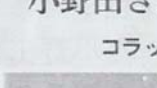
▼ 朝日新聞 H28.3.17 朝刊

ファイリヒンのジャングルで戦後約30年にわたり潜伏を続けた旧日本陸軍の元少尉・小野田寛郎さん（故人）の写真展が、福島市のコラッセふくしまで開催されている。約70点の写真やジャングルでの生活を解説するイラストなどが展示されている。20日まで。

3月12日は小野田さんがフィリピンから帰国した日で、19日は小野田さんの誕生日。主催する小野田記念財団が写真展の開催期間中

小野田さんの思い 共有して

コラッセふくしまで写真展



写真展と小野田記念財団の代表役員さん（福島市のコラッセふくしま）

に両日を迎えられるように企画した。

小野田さんは郷町でキャンプ生活を通して「主に子どもたちを育成する」「小野田自然塾」を開き、今も自然塾の活動は続いている。財団の代表役員副理事長（60）は「小野田さんは「二人で生きていけない」と繰り返し言っていた。震災もあり、思いを共有してもらえる人も多いのでは」。問い合わせは財団（022・738・9142）へ。

▼ 福島民友 H28.3.14 朝刊

小野田さんの生涯しのび
福島 20日まで写真展

小野田寛郎翁を偲ぶ
写真展は十日、福島市
のコレッセふくしまで
開幕した。二十日まで。
太平洋戦争の終戦を知
らずにフィリピン・ル

小野田さんの生涯を記
録した写真が並ぶ会場

バンク島に約三十年残
留した元陸軍少尉、故
小野田寛郎さん。享年



約七十点を展示している。
時間は午前十時から午後五時まで。入場無料。問い合わせは小野田記念財団仙台事務局 電話022(7)33809142へ。

▼ 福島県塙町主催会場 道の駅

小野田さんをしのぶ写真を紹介する菊池町長（左）



ゆかりの塙で写真展開幕 来月15日まで

故 小野田寛郎さんを追悼

太平洋戦争の終戦を知らずに、フィリピン・ルバング島に約三十二年間とどまった元陸軍少尉、故小野田寛郎さん（享年92）を追悼する「小野田寛郎翁を偲ぶ写真展」は、一周忌に当たる十六日、小野田さんゆかりの塙町で始まった。二月十五日まで。

町の主催、福島民報社などの後援で、道の駅はなわが会場となった。

小野田さんが開設した。小野田さんが開設し、死後に解散した財団法人小野田自然塾から町が譲り受けた五十枚の写真パネルを展示した。

出征前の姿、帰国後、同町片貝に建てた自然塾で子どもたちと触れ合う様子などを収めたパネルが並ぶ。関連書籍も紹介している。多くの来場者が訪れ、在りし日の小野田さんをのんびりしている。

初日はセレモニーを行った。菊池基文町長が「（小野田さんは）青少年の育成に強い思いがあった。野外活動などの無形の財産を伝えていきたい」とあいさつし、元小野田自然塾評議員の鈴木道男町議会議長と自然塾理事の近藤洋成さんが祝辞を述べ、テープカットした。写真展の時間は午前十時から午後四時まで。問い合わせは塙町観光協会 電話0247(43)3400へ。

305号

（日刊）



2015（平成27）年

1月17日

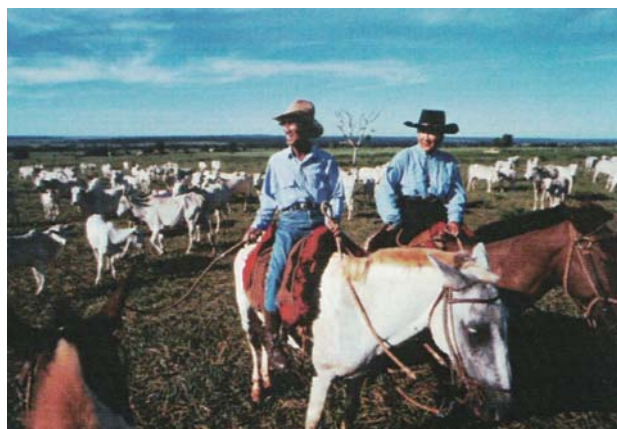
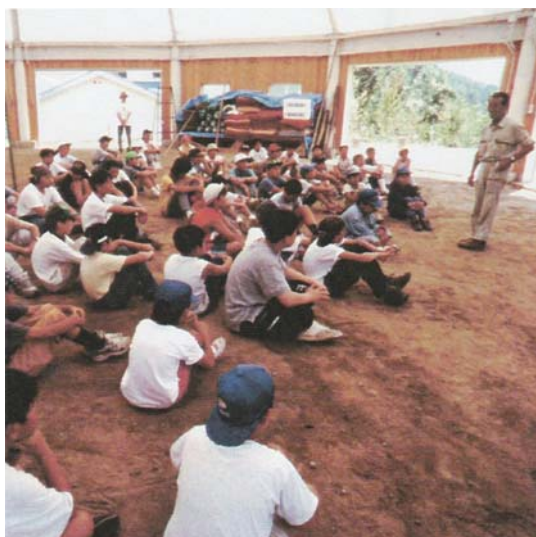
土曜日

ご来場いただいたお客様からのご感想

- ▶ 今の子供たちに勇気・努力・協調性を培うと共に、目的に向かう大切さや自然の良さを知って欲しいと思いました。＜匿名＞
- ▷ 自然塾があるのをはじめて知りました。子供たちだけでなく大人も老人もこの塾に参加できれば皆優しい人になれると思います。＜K・Iさん＞
- ▶ 父がシベリア抑留、おじが満州で戦死したので軍人とし任務を全うした小野田さんに敬意を表したい。＜匿名＞
- ▷ 報道されない始めてみる写真もあり良かった ＜E・Sさん＞
- ▶ 日本人の忘れてはならない心や知恵を持っている方だということがわかり興味深かった。＜匿名＞
- ▷ 小野田さんの人となりやジャングルでの生活がよく分かり良かった。＜匿名＞
- ▶ 日本人の資質を最大限に活用した方だと感じた。この姿勢を日本人は忘れてはならないと思いました。＜匿名＞
- ▷ 今の私にはとても考えられない30年だと思う。しかし帰国してからの小野田さんのイキイキした写真を見て幸せそうで良かったと感じました。＜M・Mさん＞
- ▶ これまでに拝見したことのない写真があり小野田さんに対する理解を深めることができました。＜Y・Wさん＞
- ▷ 戦争とは何かを考えさせられた。今の人は平和ボケしていると思う。生きていく苦労をもっと知って欲しい。自然塾に参加した思い出は子供にとって財産ですね。＜R・Sさん＞
- ▶ 名前しか知らなかった小野田さんのジャングルでの暮らしぶりや当時の新聞、子供たちとの自然塾の活動などよく知ることができ良かったです。＜匿名＞
- ▷ 小野田少尉が日本に帰国したとき私は小学生だったが、子供心に「この人はすごい」と思った。その後小野田さんに関係する本を読み感動した。一度お会いしたかった。今の人は小野田少尉のことなど知らない人が多い。ぜひ後世に語り継いでいって欲しい。＜H・Sさん＞
- ▶ 小野田さんの数奇な運命、過酷なジャングルでの生活から自然塾での笑顔まですべて紹介されていてよかった。＜匿名＞
- ▷ 今の日本に必要な心と姿勢を感じた。＜匿名＞
- ▶ 戦前戦後よりもすさんだ心を持つ若者が多いことにこの国の未来を心配している。財団はぜひそこに軸足をおいて頑張ってください。＜匿名＞
- ▷ 現在は物があふれ、物の大切さ、時間の大切さを大事にしないようになってきているように思う。何でも恵まれすぎて考えることが少なくなっていると思う。＜匿名＞
- ▶ 福島での青少年健全育成活動について知っていたが、亡くなられてからのちの小野田さんの活動が継承されていることを知りうれしく思います。これからも活動できるよう支援したいと思う。＜K・Mさん＞
- ▷ 今の世の中小野田さんを知る人がどれくらいいるんだろう。自分の子供に問いかけてみたくなった。そして生き抜く力をもう一度考えてみるのもいいかと思った。＜匿名＞
- ▶ 小野田さんの帰国前後の表情の違いに驚いた。(特に眼光) ＜N・Hさん＞
- ▷ 当時は報道、主にテレビだけでワイドショー的できちんと伝わっていなかったと感じている。＜N・Nさん＞
- ▶ 自分の今の生活に対し無駄を発見し反省するいい機会になったと感じた。＜R・Oさん＞
- ▷ 当時の新聞をみることができたこと、それが一番心に残っています。そしてその記事の中に小野田さんの日本に帰国されてからの活動生き方に感動しました。＜T・Gさん＞

他、多くのご感想・ご意見ご要望をいただきました。

展示写真の一部紹介



※写真提供 写真家 茅原田哲郎様

写真展開催にご協力をいただいた企業様（順不同）

- ・株式会社幸成様（写真展会場提供：仙台 五橋ビル7階WORLD OFFICE）
- ・レントオール仙台株式会社様（展示備品一式等、会場設営）
- ・東北総合サービス（株）テクノプリントセンター様（等身大パネル看板製作等）



一般財団法人
小野田記念財団

小野田記念財団仙台事務局

〒980-0022 宮城県仙台市青葉区五橋 1 丁目 6-3 五橋ビル 7F
TEL : 022-281-8228 / FAX : 022-721-0186

<https://onoda-shizenjuku.jp/>